

国保基金18億円は、医療費窓口負担補助にも活用を 総務委員会で田中市議が主張

9月議会の一般会計補正予算として、国保基金も財源とした、国保加入者への人間ドック費用補助の増額が提案され、総務委員会で議論されました。ドック受診の際の自己負担を8千円（脳ドック1万円）に抑えるものです。

田中市議は、「18億円もの基金は、もともと加入者に還元すべきものであり、ドック補助の増額そのものは良いこと」と前置きしたうえで、「所得階層別の人間ドック受診率はどのような実態か」と質問しました。

これに対し、小松原市民部次長は、「それぞれの受診率は、所得600万円以上で21%、600万円以下の課税世帯で14%、非課税世帯で6%となっている」と回答しました。

田中市議は、「所得の低い層の受診率が低いのは、ドック受診で悪いところが見つかったとしても、受診時に窓口で支払う医療費一部負担金が払えないのではないかとの不安のため、ドック受診そのものをあきらめている実態があるのではないか。」と指摘して、「国保法44条に定める医療費窓口負担金の減免制度を、適用した件数は何件か」と質問したところ、適用件数はないことが明らかになりました。

田中市議は、採決の際、「今回提案されたドック補助の実施に賛成するが、本来、様々な施策を比較検討して財源の使途を決めるべきであり、医療費窓口負担金の補助の実施も検討すべき」と述べたうえで議案に賛成しました。

秋晴れの一日

子ども奉納相撲で熱戦

八東町入江地区で10月20日（日）、三所神社の秋祭り

に合わせ、子ども奉納相撲が行われました。

三所神社には、大正年間に大坂力士で小結まで昇進した入江地区出身の『稲の花清五郎』寄進の石塔があります。

熱戦の奉納相撲

氏子総代や地区子ども会が協力し、保育園年長組から六年生まで男女22人が参加。年齢で女子は2組に、男子は3組に分かれて、それぞれ総当たりと五人抜きで、熱戦に多くの住民が声援を送りました。入江地区では公会堂と神社に土俵があります。神社では以前、近隣のアマチュア力士による奉納相撲や、大相撲力士を招いての奉納相撲なども取り組まれたとのことです。

また、入江公会堂前には、同じく同地区出身で、江戸時代の文政・天保年間に江戸相撲で大関となった、松江藩お抱え力士、『四声山加手右エ門』の碑があり、地域の相撲の歴史が伺えます。

入江地区では、正月の宮練り、夏の盆踊りと、地域の行事が大切に組み込まれています。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）指定のための説明会開かれる



東出雲ふれあい会館にて開催された説明会

10月19日、東出雲町内のレッドゾーン指定のために、市都市整備部が主催する説明会が東出雲町内でありました。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）は、すでに指定が終了。より危険度の高いレッドゾーン指定のために、2年間で地区ごとに開く説明会です。

がけ崩れ・土石流・地すべりが実際に起きた迫力ある映像を観た後、県土整備事務所職員がレッドゾーンについて説明。質疑では、レッドゾーン内に建っている自分の家の将来を心配する切実な思いが出されました。

吉儀市議は「レッドゾーン内の宅地の補強や移転費用の助成はあまりにも低い。5件まとまれば必要な対策をするための事業も2割しか予算がつかない状況であり、もっと増額すべきではないか」と質問しましたが「個人の資産に手厚くできない」との県土整備事務所職員の回答でした。

若者も高齢者も安心できる年金制度を

年金者組合東部支部が宣伝

年金者組合東部支部は、年

金支給日の10月15日、みしまや春日店前で全国一斉宣伝を行いました。

年金者組合は、低年金、無年金者をなくすための最低保障年金制度を創設すること。さらなる年金受給年齢の引き下げは行わないこと。際限なく年金を引き下げるマクロ経済スライドは中止すること。年金は、毎月支給にすること。などの要求を掲げ、年金者組合として7名で署名への協力を訴えました。「年金引き下げは、憲法違反」と裁判に訴

えていることも報告しました。「どうして年金が下がるかわかりました」「消費税が上がって生活が不安です」「年金ですか？署名します」等の声寄せられました。

一緒に買い物に来た人に署名を勧める方、年金生活の苦しさを訴える方など年金に対する関心の高さを反映して、64筆も集まりました。

年金者組合の皆さんは、この日の活動に確信を持ち、今後署名活動を続けることを確認しました。



署名を訴えた時に、掲げたポスター